

1. とうもろこしのシカゴ定期は、12月には350セント／ブッシェル前後で推移していたが、生育期にある南米産地において乾燥が続き作柄悪化懸念が高まったこと、2月8日発表の米国農務省需給見通しで輸出需要が増加し、期末在庫が下方修正されたことなどから相場が堅調に推移した。その後、米国产新穀の作付面積が減少見通しとなったことや作付の進捗が平年より遅れていることなどから強含みの展開となり、現在は400セント／ブッシェル前後となっている。
2. 大豆粕のシカゴ定期は、12月には350ドル／トン前後であったが、米国产大豆の中国向け輸出需要が旺盛であることなどから相場が堅調に推移し、さらに2月に入り乾燥による南米産大豆の作柄悪化懸念が高まったことにより高騰した。その後、米国产新穀大豆の作付が遅れていることなどから引き続き堅調に推移し、現在は420ドル／トン前後となっている。
3. 米国ガルフ・日本間のパナマックス型海上運賃は、11月には40ドル／トン前半であったが、中国向け大豆や石炭などの輸送需要が好調であることなどから、45ドル／トン台で推移してきた。その後、米中貿易摩擦により中国向け輸送需要に対する不透明感があるものの、原油価格が上昇していることなどから、引き続き45ドル／トン前後となっている。
4. 外国為替は、12月には112円を超える水準であったが、米財務長官によるドル安を支持する発言や、2月に入り世界的に株価が急落し、リスク回避の動きが強まったことなどから106円前後まで円高がすすんだ。その後、米中貿易摩擦問題への懸念が後退したことや米国経済が好調なことなどから円安となり、現在は110円台となっている。

